

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成31年4月～令和7年3月（6年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

平成31年4月、これまでのまちづくりのテーマを引き継ぎつつ、回遊を拡げ、ビジネス集積等を目指した「長岡市中心市街地活性化基本計画（第3期計画）」を策定し、産業振興とイノベーション創出の環境を整えるため、大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業により、産学官金が結集した人づくりと産業振興の拠点であるミライエ長岡の西館を先行オープンし、必要な都市機能を集積した。

産業を育成するためにN a D e C構想に基づき、起業支援に関する事業に取り組んだことで、コロナ禍で経済状況が不安定な中でも起業は一定数成立した。しかし、中心市街地で働きたいと思わない人が約6割、また中心市街地の空き店舗数及び空き店舗率は、依然として増加傾向を示している。一方で、ミライエ長岡の西館の先行オープンを契機に、周辺では企業進出の動きや空きビル、空き店舗の活用の動きも見えつつある。

居住環境の整備等に関する事業に取り組んだが、人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響により、30歳代以下だけでなく中心市街地全体の居住人口が微減した。また、中心市街地に住むことは考えていない人が約7割と依然として高いほか、市民は中心市街地の将来像として「多様な人が活躍できる場が整っている状態」を求めている。

行動制限等により歩行者・自転車通行量（平日）は大幅に減少していたが、休日は18,444人/日（H30）から40,136人/日（R5）と基準年を大きく上回り、平日も前年度から微増していることから、徐々に回復の兆しが見え始めている。また、ミライエ長岡付近の地点で2,800人/日（R4・平日）から3,281人/日（R5・平日）に増加し、周辺地点でも増加傾向にあり、賑わいが拡がりつつある。さらに、令和5年度市民アンケート結果では、ミライエ長岡の西館の先行オープンにより、「まちなかが魅力的になりそうだと思う」割合が4割と、期待感が高まっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

（基準日：毎年度3月31日）

（中心市街地 区域）	平成30年度 （計画前年度）	令和元年度 （1年目）	令和2年度 （2年目）	令和3年度 （3年目）	令和4年度 （4年目）	令和5年度 （5年目）	令和6年度 （6年目）
人口	5,660	5,685	5,596	5,501	5,532	5,567	5,488
人口増減数	-	25	-89	-95	31	35	-79
自然増減数	-	-48	-64	-71	-65	-83	-74
社会増減数	-	73	-25	-24	96	118	-5
転入者数	-	281	290	210	254	286	233

※計画前年度以前の区域の人口増減数等が把握できておらず記載ができないもの

(2) 地価

(基準日：毎年度1月1日 / 単位：円/㎡)

	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)	令和6年度 (6年目)
4 地区前年度比 平均変化率		98.5%	97.7%	98.0%	98.1%	98.9%	99.4%
大手通 1-4-3	248,000	244,000	238,000	233,000	229,000	228,000	228,000
台町 2-2-8	114,000	112,000	109,000	106,000	103,000	101,000	99,800
殿町 2-2-6	97,700	96,500	94,800	92,700	90,700	89,200	88,000
表町 1-9-12	106,000	105,000	103,000	102,000	101,000	100,000	99,600

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね予定通り進捗・完了した

②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、相次ぐイベントの中止や延期を余儀なくされ、本市はソフト事業の比率が高いこともあって、計画の目標指標に想定以上の大きな影響を与えたが、ミライエ長岡の西館の先行オープンを契機として、これまでの取り組みの成果が表れつつある。

平日の歩行者通行量は、新型コロナウイルス禍の行動制限の影響により、令和4年度は17,046人となり大幅に減少してきたが、令和5年度は17,854人、令和6年度は18,072人となりミライエ長岡の西館をはじめ、店舗、マンション、クリニック、銀行などが先行オープンしたことや、イベント等が徐々に再開した影響により回復傾向に転じた。

令和6年度の中心市街地内における起業数は6年間で最高の9件であった。長岡市内の4大学1高専、長岡商工会議所、長岡市による「N a D e C構想」に基づく段階的な起業支援事業「ファーストペンギンプログラム」や、女性や若者向けの起業イベントを継続して実施し、老若男女が起業しやすいサポート体制が整備されたことで、起業数は着実に増加している。

コロナ禍の影響による外国人労働者などの転出や、若者が出産を控える傾向から、令和3年度は1,450人となり居住人口は減少していたが、令和4年度は10人増加、令和5年度は12人増加と微増に転じて維持している。これは、大手通坂之上町地区市街地再開発事業等のマンション供給や「まちなか居住区域定住促進事業」の支援制度により、若者が中心市街地に転入・転居しやすい環境整備が進展したことによるものと推測される。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により5か年計画を1年延長した第3期計画の最終年度である令和6年度までに、全76事業の内74事業が実施されており、計画に基づき着実に進捗したものと評価する。

目標指標①「まちを『歩く人』を増やす」、③「まちに『集う若者』を増やす」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、基準値を下回る傾向が続いていたが、令和5年度の「米百俵プレイス」西館のオープンをはじめ、近隣では店舗、マンション、医療施設などが開設されたことにより、確実に人流が生まれ回復基調に転じている。今後は、来街者の回遊性を高める事業や、民間の企業・団体との連携によるソフト事業の実施・支援を積極的に行うことで、中心市街地の賑わいづくりの機運を高めていきたい。

また、目標指標②「まちで『起業する人』を増やす」については、6年間で最高の9件となっており、今後は、令和8年度の「米百俵プレイス」全館オープンを契機として、起業関連の講演会やセミナー等のイベント開催等を通じ、まちなかでの起業件数の増加に期待できる。

当協議会では、まちなかで活動するプレイヤーの発掘に向け「まちづくり部会」の運営を通じて、まちに住み、働き、活躍する人々と情報を共有し、新しい取り組みを活発に行っている若者をはじめとした、まちなかで活動する人材の発掘と支援を行うとともに、まちなかの新たな賑わいづくりに繋がる事業を実施していきたい。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

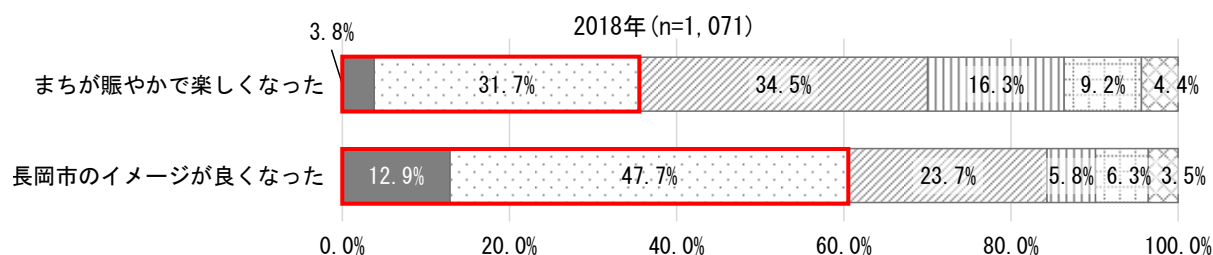
- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

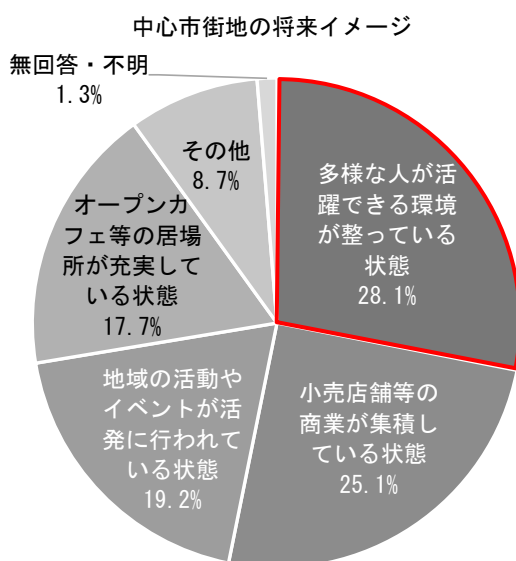
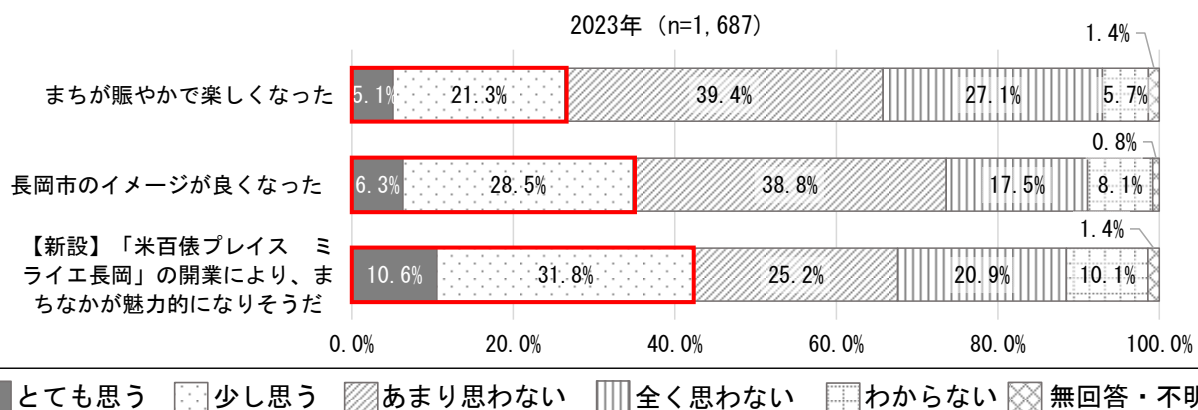
令和5年度に実施した中心市街地に関するアンケート調査では、5年前に比べて賑わいの向上やイメージの向上についての割合が低くなっており、新型コロナウイルス感染症等の影響により、賑わい等について停滞している印象を受けていることがうかがえる。一方で、西館が先行オープンしたミライエ長岡について、好意的にとらえており、将来的なイメージ等の向上が期待される。

中心市街地に求める将来像としては、28.1%が「多様な人が活躍できる環境が整っている状態」、25.1%が「小売店舗等の商業が集積している状態」を望んでいる。

○長岡市の中心市街地に関する市民アンケート調査（平成 29 年度）



○長岡市の中心市街地に関するアンケート調査（令和5年度）



6. 今後の取組

第4期計画では、大手通を軸とした「まちなか型公共サービスの展開」の総仕上げとして、ミライエ長岡の整備を着実に完了させる。チャレンジしたいと思う人を支援することで、第3期計画からつないできた機運を高め、イノベーションの創出を促し、新たな活動の輪をまちなかから市内全体にひろげる。

また、これまでつないできた JR 長岡駅やアオーレ長岡周辺の賑わいの核を維持しつつ、ミライエ長岡を中心とする新たな賑わいの核をつなぎ、新たなまちづくりの芽を育て、賑わいをまちなか全体にひろげる。

そして、その効果や成果を全市に「ひろげる」ことで、未来に向けてまちをつなぎ、さらに発展させていく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から 目標値までの幅の8割 ライン	最新値		達成 状況
					(数値)	(年月)	
まちを「歩く人」を増やす	大手通交差点より西側の歩行者・自転車通行量 (平日)(人/日)	24,409 人/日 (H30.10)	26,652 人/日 (R6.10)	26,203 人/日	18,702 人/日	R6.10	C
まちで「起業する人」を増やす	中心市街地内の起業数(件/5年)	25 件/5 年 (H26~30)	40 件/6 年 (R1~6)	37 件/6 年	38 件/6 年	R7.3	B1
まちに「集う若者」を増やす	30 代以下のまちなか居住人口(人)	1,656 人 (H30.3)	1,724 人 (R7.3)	1,710 人	1,436 人	R7.3	C
(参考指標)	学生限定のバスサービス利用者数(人)	78,881 人 (H29)	80,419 人 (R5)	64,335 人	-	-	-

<達成状況の分類>

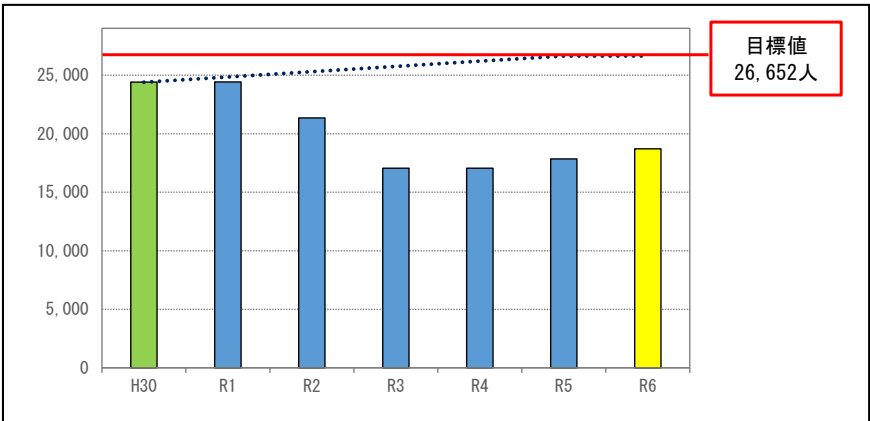
A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、英字を小文字にして英数字に下線を引いて下さい。（例：a、b1、b2、c）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

（１）「大手通交差点より西側の歩行者・自転車通行量（平日）」（目標の達成状況【C】）
※目標値設定の考え方は認定基本計画（第3期計画）P63～P67 参照

●調査結果と分析



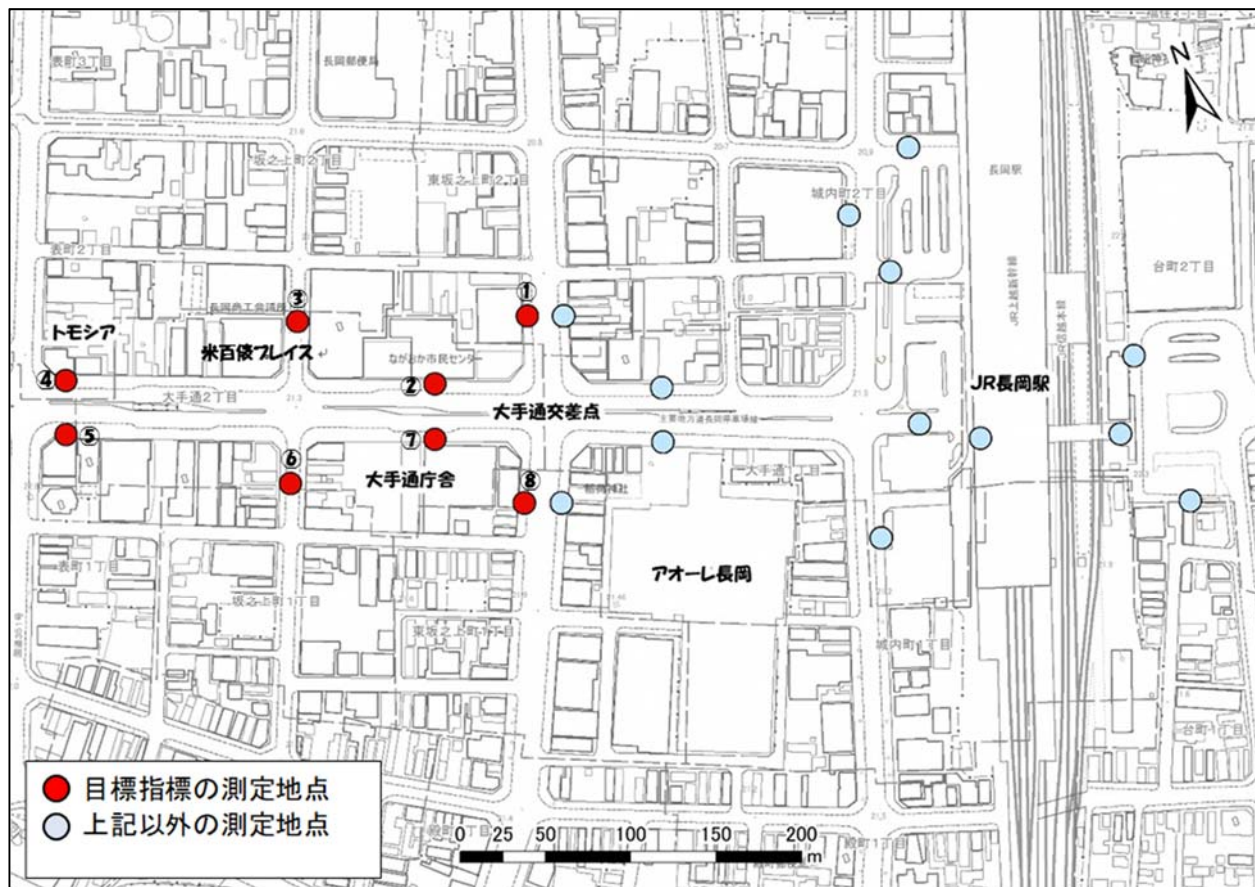
年	(単位)
H30	24,409 (基準年値)
R1	24,435
R2	21,357
R3	17,056
R4	17,046
R5	17,854
R6	18,702
R6	26,652 (目標値)

※調査方法：平日の午前7時から午後8時までの通行量を測定

※調査月：各年10月

※調査主体：長岡市

※調査対象：中心市街地区域内のうち、大手通交差点から西側の計8か所における自転車及び歩行者



(単位：人)

	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)	令和6年度 (6年目)
① 旧三井生命ビル前	2,092	2,153	2,247	2,084	1,840	1,840	1,976
② 市民センター前	4,864	4,380	4,274	3,197	2,800	3,281	3,351
③ 旧長岡商工会議所前	2,801	3,436	2,240	1,388	2,072	2,219	2,101
④ ながおか町口御門前	2,806	2,704	2,631	3,083	2,795	3,439	3,572
⑤ ショップイン大手前	2,830	2,916	2,466	1,893	2,067	1,790	2,309
⑥ 旧メンズショップパートン前	1,624	1,852	1,331	1,029	1,064	748	1,012
⑦ フェニックス大手イースト前	5,445	5,095	4,408	2,985	3,023	3,094	2,985
⑧ いろはにほへと前	1,947	1,899	1,760	1,397	1,385	1,443	1,396
合計	24,409	24,435	21,357	17,056	17,046	17,854	18,702

〈分析内容〉

長岡駅周辺の賑わいをまち全体に「つなぎ」、多くの人々が歩き、巡り、にぎわいが広がるまちを基本方針として、大手通交差点より西側8地点の歩行者・自転車通行量（平日）を目標指標に設定した。

新型コロナウイルス感染症の影響により行動制限があったことで、「トモシア交流支援事業」等の様々なイベントが実施できなかった。これに加え、ネット通販等の利用が加速し、目的地以外の場所に立ち寄る機会が減少するなど、人の行動に様々な変化がもたらされたことが要因となり、大手通交差点より西側だけでなく、元々多かった東側においても令和2年度から令和4年度にかけて大幅に減少した。

令和5年度に入り、「大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業」、「まちなか図書館（仮称）整備事業」及び「産学連携情報交流センター（仮称）整備事業」及び「まちなか観光交流センター（仮称）整備事業」により整備を進めてきたミライエ長岡の西館が先行オープンしたことや、これまで中止や延期を余儀なくされてきたイベントなどが再開し、歩行者自転車通行量は回復してきている。

また、ミライエ長岡の西館の先行オープンを契機に、まちなかへの民間投資の動きが見えはじめるなど、今後、ミライエ長岡を拠点に、様々な事業が本格的に展開することにより、交流や活動を促進し、民間による新規出店等を誘発することで、まちの回遊性が拡がると推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業（独立行政法人都市再生機構、長岡市）

事業実施期間	平成30年度～令和8年度【実施中】 【認定基本計画：平成29年度～令和7年度】
事業概要	市街地再開発事業により、公共公益、業務、商業施設、集合住宅、駐車場等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） （平成30年度～令和8年度） 【認定基本計画：平成29年度～令和7年度】
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 266人／日 【最新値】 312人／日 4街区から構成される米百俵プレイスのうち3街区（プレミスト大手通（A-1街区）、西館（A-2街区）、北館（C街区））の施設建築物が令和5年度に竣工し、米百俵プレイス東館（B街区）の建設工事に令和6年3月から着手した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は、4街区のうち3街区の施設建築物の整備が令和5年6月～7月に完了し、順次各施設が開業した。計画のとおりマンションの分譲も順調に進んだほか、他の施設建築物の開業効果により、歩行者等の通行量の増加に寄与し、目標を達成したものと考えられる。 本事業の施設建築物の1つとして約80戸のマンションを整備したことにより、目標を達成したものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	施設利用者数は開業時の好調を維持しており、歩行者等通行量の増加傾向に寄与していると考えられる。
事業の今後について	残り1街区の施設建築物は、令和8年度に完成、開業予定。全街区が開業し、産官学金など様々な機能が集い、連携することでイノベーションとにぎわいの創出を目指す。

②. まちなか図書館（仮称）整備事業（長岡市）

事業実施期間	平成30年度～令和8年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、図書館機能を含む複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年度～令和元年度） ②都市構造再編集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】920人/日 【最新値】2,086人/日（産学連携情報交流センター（仮称）整備事業分を含む） （目標達成） 令和2年度に策定した「米百俵プレイス（仮称）人づくり・学び・交流エリアまちなか図書館（機能）基本計画」に基づき、令和4年度は選書作業を行い、令和5年7月22日に西館が先行オープンした。
達成した（出来なかった）理由	学びの場、憩いの場となる複合施設が整備されたことにより、まちを歩く人、まちに集う若者が増加した。
計画終了後の状況及び事業効果	令和5年6月に西館の建築工事が完了、7月に互尊文庫が移転し、ミライエ長岡西館がオープンしたことで、多くの市民に利用されることとなり、中心市街地における市民の居場所づくりの一助となった。また、移転により「教育」に関する都市的サービスを享受しやすくなった。
事業の今後について	令和6年3月から東館の建築工事に着手した。令和3年度に策定した「米百俵プレイス ミライエ長岡 まちなか図書館（互尊文庫）サービス計画」に基づき、令和8年の全館開館に向け準備を進めている。

③. 産学連携情報交流センター（仮称）整備事業（長岡市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【済】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、地元産業の開発・研究・情報発信等の拠点となる施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（令和元年度） ②都市構造再編集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】656人/日 【最新値】2,086人/日（まちなか図書館（仮称）整備事業分を含む） （目標達成） 令和元年度に委託した実施設計に基づき、令和4年度は市の商工担当部署で、求められる機能や運営体制を検討し、令和5年7月22日に西館が先行オープンした。
達成した理由	本事業により整備した NaDeC BASE では、オープン以降、産業

	振興の拠点として、4 大学 1 高専の学生や産業界の関係者等が交流を深め、活動を広げており、利用者増につながっている。
計画終了後の状況及び事業効果	NaDeC BASE を拠点に、4 大学 1 高専の学生や産業界の関係者が集い、交流することを通じて、まちに集う若者の増加や起業する人が増加傾向にある。
事業の今後について	NaDeC BASE を拠点に、市内 4 大学 1 高専や産業界の関係者が集い、若者の起業・創業や産業ビジネスの支援を通じて、イノベーション創出の促進や産業振興の発展を目指す。

④. トモシア交流支援事業（社会福祉法人長岡市社会福祉協議会、長岡市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	社会福祉センタートモシアで市民の交流の場を提供するとともに、ボランティア活動を支援し広く発信する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成 31 年 4 月～令和 7 年 3 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】34 人/日 【最新値】0 人/日 目標値は平成 29 年度実績の 1 割増 69,911 人/年としたが、令和 6 年度実績は 60,257 人/年のため、最新値は 0 人/とした。令和 6 年度は、利用件数は 3,948 件（令和 5 年度は 3,960 件）と横ばいである一方で、全体の利用者数は、5 年度が 53,466 人に対し、6 年度は 60,257 人と前年比 12.7%の増加となっている。トモシア内のボランティアセンターにおけるボランティア件数については、5 年度が 1,788 件に対し、6 年度は 2,160 件と前年比 20.8%の増加となっている。
達成した（出来なかった）理由	コロナ禍やミライエ西館のオープン等の影響により目標値を達成出来なかったが、「トモシア」が市民の交流及び活動の場として浸透したと同時に、使い勝手の良さやスタッフの対応などにより、広く市民から受け入れられている。
計画終了後の状況及び事業効果	市民から広く受け入れられたことで、ボランティアセンターにおいてはボランティアを始めたい市民が来所し相談する件数が増加しており、1 階のフリースペースでは自主学習をする学生が増え放課後等の居場所としても利用されている。
事業の今後について	引き続き、指定管理者と協議しながら、世代に応じた情報発信や、新しい生活様式を実施しながらも交流できるようなプログラムを検討するとともに、来館者に対する接遇向上に努めていく。

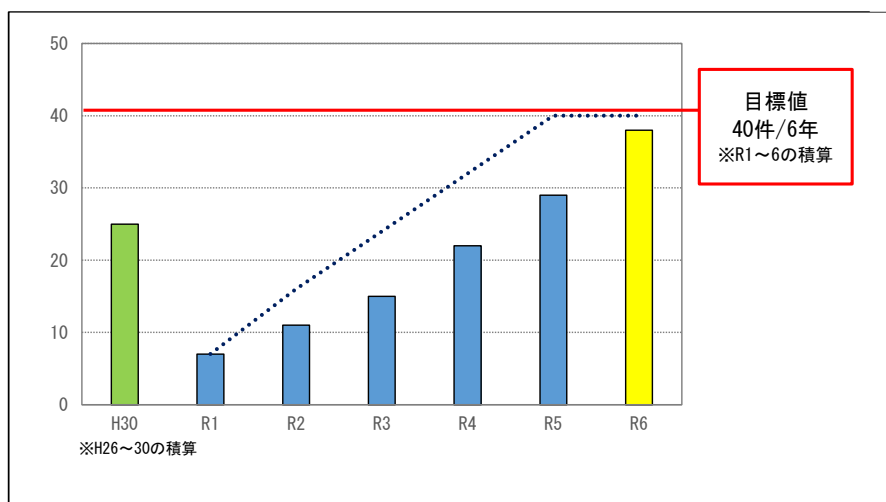
●今後の対策

新たな賑わいの核となる「大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業（まちなか図書館（仮称）整備事業、産学連携情報交流センター（仮称）整備事業、まちなか地域交流センター（仮称）整備事業、まちなか観光交流センター（仮称）整備事業）」の完了に向けた着実な実施と、ミライエ長岡のフルオープンを契機としたイベントの実施や周辺での新たなまちづくりの芽を育て、まちなかで過ごしたくなるような魅力の向上と、公共交通など移動しやすい環境の構築により、回遊性を向上させる必要がある。

(2)「中心市街地内の起業数」(目標の達成状況【B1】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 68～P. 70 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H26 ～30	25 (基準値)
R1	7
R2	11
R3	15
R4	22
R5	29
R6	38
R6	40 (目標値)

※調査方法： 長岡市、ながおか・若者・しごと機構及び起業支援センターながおか相談者へのヒアリング

※調査月： 平成31年4月～令和7年3月の5年間の累計（毎年度3月末調査）

※調査主体： 長岡市

※調査対象： 中心市街地区域内での起業家

〈分析内容〉

産学官金を「つなぎ」、多様なビジネスが生まれ、育ち、集積するまちを基本方針として、中心市街地内の起業数を目標指標に設定した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたものの、「NaDeC 構想先行実施事業」や「学生起業家育成事業」により多様な人の交流を促す場を提供し、ミライエ長岡の西館の先行オープンとともに起業に対する支援を推進したことで、令和2年度から令和5年度の4年間で22件増加している。

今後も引き続き、ミライエ長岡を中心として、起業関連の講演やセミナーの開催、外部有識者によるメンタリング、ビジネスアイデアの事業化支援等を強化するほか、スタートアップの推進に向けたアドバイザーとして地域活性化起業人を活用し、支援を強化するなどの対策を講じることで、さらなる起業家数の増加につながるものと想定する。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①NaDeC構想先行実施事業（NaDeC構想推進コンソーシアム、市内4大学1高専、長岡商工会議所、長岡市）

②NaDeC推進事業（NaDeC構想推進コンソーシアム、市内4大学1高専、長岡商工会議所、長岡市）

事業実施期間	①平成30年度～令和5年度【済】 【認定基本計画：平成30年度～】 ②令和5年度～【実施中】
事業概要	①大手通坂之上町地区市街地再開発事業への導入を検討するNaDeC構想について、既存施設で先行的に実施して検証を行う。 ②大手通坂之上町地区市街地再開発事業に導入する機能として4大学1高専から提案を受けたNaDeC構想について、米百俵プレイス ミライエ長岡のNaDeC BASEにおいて推進する事業。
国の支援措置名及び支援期間	①地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和4年度） ②デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】10件/6年 【最新値】8件/6年 ※コワーキングスペースの新規利用者数は把握できないため、ものづくり工房のみの新規利用者数から算定 平成30年6月から先行実施施設NaDeC BASEを開設し、事業を実施。市内4大学1高専の学生教職員を中心に地域企業関係者や市民の利用が新たに発生している。 平成30年度NaDeC BASE 利用者数 18,436名 （うちものづくり工房新規利用者数 7名） 令和元年度NaDeC BASE 利用者数 16,000名 （うちものづくり工房新規利用者数 45名） 令和2年度NaDeC BASE 利用者数 3,354名（7か月） （うちものづくり工房新規利用者数 38名） 令和3年度NaDeC BASE 利用者数 4,999名 （うちものづくり工房新規利用者数 52名） 令和4年度NaDeC BASE 利用者数 7,208名 （うちものづくり工房新規利用者数 83名） 令和5年度NaDeC BASE 利用者数 6,591名 （うちものづくり工房新規利用者数 126名） 令和6年度NaDeC BASE 利用者数 8,659名 （うちものづくりラボ新規利用者数 131名）
達成した（出来なかった）理由	ものづくり工房の移転により営業できない期間があり、新規利用者が増えない期間があったため。
計画終了後の状況及び事業効果	ものづくり工房は、令和5年度の途中でミライエ長岡に移転し、ものづくりラボとしてその機能を拡充している。この移転後は、新規利用者数が順調に増えており、事業継続の効果が出ている。

事業の今後について	引き続き事業を継続するとともに、新規利用や利用促進のためのイベントの実施と、ミライエ長岡で行われるイベントとのコラボレーション企画などで、高校生など若年層からシニア層まで幅広い利用者の確保を目指す。
②. 若者チャレンジショップ事業（ながおか・若者・しごと機構）	
事業実施期間	平成 30 年度～令和元年度【済】
事業概要	起業を目指す若者を支援するため、体験出店、セミナー、個人相談を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成 31 年 4 月～令和元年 10 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 3 件/6 年 【最新値】 1 件/6 年 ＜令和元年度実施事業＞ ○若者チャレンジショップ in 五・十の市 五・十の市におけるお試し出店の機会を提供 支援内容：出店経費補助、出店に係る備品貸与 出店者：3 人 ○若者チャレンジショップ出店講座 起業支援センターながおか clip への業務委託により、講義とまちなかでのお試し出店をセットにした講座（全4 回）を開催 第1 回：出店計画セミナー（受講者：8 人） 第2 回：お試し出店（出店者：8 人） 第3 回：課題振り返りセミナー（受講者：6 人） 第4 回：リベンジ出店（出店者：6 人） ○若者チャレンジショップ in 米百俵まつり 米百俵まつりにおけるお試し出店の機会を提供 支援内容：出店経費補助 出店者：5 人 ＜事業効果＞ ・中心市街地での起業・出店者1 人 ・中心市街地における起業マインドの醸成
達成した（出来なかった）理由	ネット通販の浸透など消費行動の変化に伴い、店舗型の起業・出店のニーズは年々低下し、参加者も固定化しているため、チャレンジショップ事業としての支援は令和元年度で終了した。
計画終了後の状況及び事業効果	現在、若者の起業・創業は「若者提案プロジェクト実現事業」等によって店舗型に限らず幅広く支援しており、今後も継続する。
事業の今後について	令和元年度で終了した。

③. 学生起業家育成事業（長岡市、長岡商工会議所、起業支援センターながおか clip、市内金融機関）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	NaDeC BASE をメイン会場に、学生の起業創業のサポートを行う。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～4 年度） デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和 5 年度～6 年度） 【認定基本計画：令和 5 年度】
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 2 件/6 年 【最新値】 7 件/6 年（目標達成） <学生起業家育成事業による起業件数>（○）が中心市街地 H30 年度：1 件 ・拾壱・ビッグストーン株式会社 R1 年度：2 件 ・ベイビーチャップリン（○） ・株式会社サケアイ R2 年度：5 件 ・株式会社プロッセル ・株式会社THE TWO ・株式会社雷神（○） ・すまいるカフェ ・合同会社発酵を科学する研究所 R3 年度：3 件 ・株式会社パンタレイ ・Rural Reading（ル-ラル リーディング） ・株式会社スタイルアーツ（○） R4 年度：3 件 ・ぺえぺえでざいん ・暮らしの雑貨店 HOP!（○） ・合同会社サトラボ R5 年度：3 件 ・株式会社FieldWorks ・でざいんのむすびめ ・株式会社 nexfare（○） R6 年度：3 件 ・AQVANA(株) ・(株)N. nor（○） ・(株)カナタ（○）
達成した（出来なかった）理由	令和 6 年度の中心市街地内における起業数は、2 件であり、トータルとして目標を上回り、「まちで起業する人」は着実に増加している。 長岡市内の 4 大学 1 高専、長岡商工会議所、長岡市の「NaDeC 構想」に基づく段階的な起業支援事業「ファーストペ

	ンギンプログラム」や、起業支援センターCLIP 長岡を主体とした起業イベントの実施、外部有識者によるメンタリングに加え、スタートアップの推進に向けたアドバイザー活用など、様々な起業支援の強化対策による成果と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	起業に向けた機運醸成の取り組みを、4 大学 1 高専をはじめとする関係機関との連携図りながら継続的に行うことで、起業を志す学生が着実に増加している。
事業の今後について	関係機関との連携を継続、強化しながら、若者がチャレンジしやすい環境整備や、起業家コミュニティの形成など、成長段階に応じた支援を進め、学生起業家の集積が図られるよう後押しを行っていく。

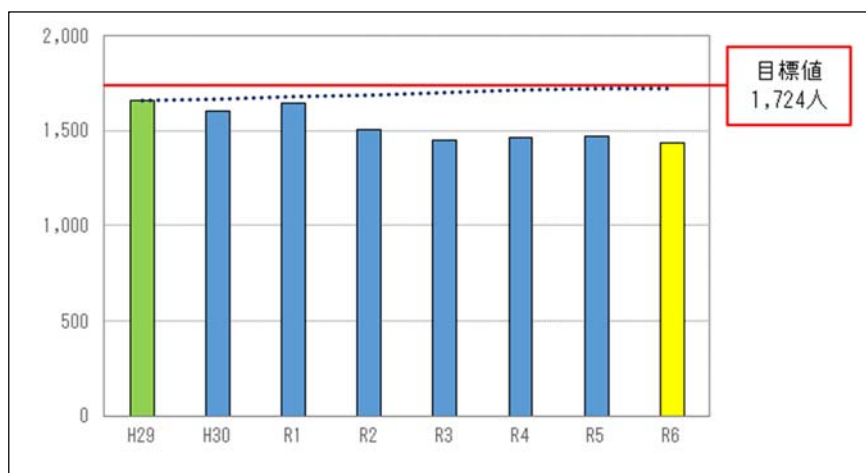
●今後の対策

ミライエ長岡のフルオープンにより、産学連携を推進する NaDeC 構想推進コンソーシアム（商工会議所、4 大学 1 高専、本市で構成）の活動拠点「NaDeC BASE」において若者や起業家が集まり、ベンチャー企業が生まれる等、イノベーションを生み出す機運が高まっていくものと考えられる。この機運を捉え、挑戦したい人を後押しするとともに、働く場としてだけでなく、4 大学 1 高専それぞれの特色と強みを活かした学びと、多様な活動や交流を促進させてイノベーションを生み出す環境を整え、個性や可能性を引き出せるような、チャレンジできる機会と場所が必要である。

(3) 「30 代以下のまちなか居住人口」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 71～P. 75 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H29	1,656 (基準年値)
H30	1,605
R1	1,646
R2	1,502
R3	1,450
R4	1,460
R5	1,472
R6	1,436
R6	1,724 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：各年度3月末時点

※調査主体：長岡市

※調査対象：中心市街地区域内の39歳以下の人口

〈分析内容〉

4 大学1高専の若者と様々な年代を「つなぎ」、将来を担う若者が集い、活躍するまちを基本方針として、中心市街地内の30代以下人口を目標指標に設定した。

新型コロナウイルス感染症の影響による外国人労働者などの転出や、若者の結婚や出産を抑える傾向から、令和2年度から令和3年度にかけて年々減少していたが、令和4年度以降、微増に転じた。これは、「大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業」等によるマンション供給や、「まちなか居住区域定住促進事業」の固定資産税の免除制度により、若者が中心市街地に転入しやすい環境整備が進んでいることが起因している。

一方、全市的に見ると、30代以下のうち20代の転出者は、転入者の1.2倍と転出超過となっていることや、令和5年度実施の市民アンケート調査では、「中心市街地に住むことは考えていない」30代以下が67.8%と、前期計画と比較して約11ポイント改善したが、依然として高い。

また、当初予定していた「若者のまち居場所づくり推進事業」や「まちなか建物更新等支援事業」が進展せず、現時点で見通しが立っていないが、若者が活動するソフト事業に取り組みながら、具体的な事業への道を探すとともに、引き続き支援制度を継続し、民間の建替え需要を逃さずに市街地環境の整備・改善を行う事業者を支援する。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. まちなか建物更新等支援事業（まちづくりを目指す団体、民間事業者、長岡市）

事業実施期間	平成28年度～令和7年度【実施中】
事業概要	老朽建築物や空き地の共同化による市街地環境の整備・改善を行う事業者を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	30代以下のまちなか居住人口 【事業目標値】 28人 【最新値】 0人
達成した（出来なかった）理由	民間事業者から共同化の相談等はあったが、地区内権利者の合意に時間を要したことなどから、工事の着手に至らなかったため。
計画終了後の状況及び事業効果	民間の建築物の老朽化は進み、継続的に共同化や建替えの相談を受けている。近年の資材や人件費の高騰により、行政支援のニーズは高いものと考えられる。
事業の今後について	令和8年度から1地区（城内町地区）の実施設計費等を支援する。引き続き支援制度を設け、民間の建替え需要を逃さずに市街地環境の整備・改善を促進したい。

②. 若者のまち居場所づくり推進事業①（長岡市、民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【済】
事業概要	旧柳原分庁舎敷地を活用し、若者が居住できる環境を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	民間資金等活用事業調査費補助事業（内閣府） （令和2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】50人 【最新値】0人 令和2年度は、「PFI等の導入可能性調査業務委託」を簡易評価型プロポーザル方式により実施。委託業者を中心に、市内4大学1高専の学生を対象としたアンケートやワークショップなどのニーズ調査のほか、民間事業者向けの意向調査も実施し、敷地活用の方向性について調査を行った。 令和3年度は、活動をするうえで必要な電気・水道のインフラ整備を行い、事業の推進と機運醸成、敷地の利用価値を高めるための環境を整えた。 令和4年度及び令和5年度は、NPO法人が主催して当該敷地を会場にした活動を2回開催。大学生を対象としたまち歩き、ワークショップのほか大学生が企画した地域住民も参加する雪を楽しむイベントを実施した。 令和6年度は、大学生が主催のイベントを実施した。
達成した（出来なかった）理由	民間事業者向けの意向調査を実施し、敷地活用の方向性について調査したが、若者の居住ニーズはあるが、事業者は市の財政負担を抑えた事業形態への対応が現時点では難しいと判断した。

計画終了後の状況及び事業効果	若者の地元定着を進めるという基本方針と、まちなかに若者の居場所をつくる目的に変わりはない。若者の活動を実施するソフト事業に取り組みながら、具体的な事業への道を探したことで、大学生が主催のイベントが開催されるなど一定の効果があった。
事業の今後について	引き続き、「若者の活動」や「地域の交流」を目的としたイベントやワークショップ等で土地を活用してもらい、価値や認知度を高めていながら、現在整備中の「米百俵プレイス」の完成も見据えた敷地の活用に向けた検討を進めていく予定である。

③. まちなか居住区域定住促進事業（長岡市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	まちなかへの転入者等が住宅を購入等して居住する場合、固定資産税を免除する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 41 人／事業期間 「まちなか居住区域定住促進事業」等の効果により中心市街地へ入居する 39 歳以下の世帯を 10 世帯 世帯人数を 4.1 人（長岡市内の未就学児、小学生の兄弟数の平均 2.1 人＋両親） として、10 世帯×4.1 人＝41 人 ※長岡市中心市街地活性化基本計画＜第 3 期計画 参照＞ 【最新値】 平成 30 年 申請期間 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 1 月 31 日 中活エリア 3 人（2 世帯）うち、39 歳以下 0 人（0 世帯） 令和元年 申請期間 平成 31 年 2 月 1 日～令和 2 年 1 月 31 日 中活エリア 12 人（8 世帯）うち、39 歳以下 1 人（1 世帯） 令和 2 年 申請期間 令和 2 年 2 月 1 日～令和 3 年 1 月 31 日 中活エリア 0 人（0 世帯）うち、39 歳以下 0 人（0 世帯） 令和 3 年 申請期間 令和 3 年 2 月 1 日～令和 4 年 1 月 31 日 中活エリア 4 人（1 世帯）うち、39 歳以下 3 人（1 世帯） 令和 4 年 申請期間 令和 4 年 2 月 1 日～令和 5 年 1 月 31 日 中活エリア 6 人（5 世帯）うち、39 歳以下 2 人（2 世帯） 令和 5 年 申請期間 令和 5 年 2 月 1 日～令和 6 年 1 月 31 日 中活エリア 13 人（6 世帯）うち、39 歳以下 7 人（5 世帯） 令和 6 年 申請期間 令和 6 年 2 月 1 日～令和 7 年 1 月 31 日 中活エリア 2 人（1 世帯）うち、39 歳以下 0 人（0 世帯） 計 40 人（23 世帯） 計 13 人（9 世帯） 【事業達成状況】 令和元年度～令和 6 年度 目標未達成 目標値：39 歳以下の世帯 41 人（10 世帯） 最新値：39 歳以下の世帯 13 人（9 世帯）

達成した（出来なかった）理由	中心市街地で当事業を活用した人の傾向をみると、対象住宅は「分譲マンションの購入」によるものが95%と大多数を占め、年齢層は、目標指標である39歳以下の方よりも、40歳以上の方のほうが多い。また、当事業を活用する子育て世帯は、通学や居住空間の広さ、住宅の価格帯などの面から、中心市街地以外のまちなか居住区域内を選択する傾向が強く、目標値の3割の達成に留まった。
計画終了後の状況及び事業効果	当事業と市街地再開発事業などによる民間のマンション供給があることにより、中心市街地に転入しやすい環境整備を進めることができている。
事業の今後について	事業の利用者を増やすため、今後、様々な方法で情報発信を行うほか、都市機能誘導について検討し、中心市街地を始めとした、まちなか居住区域への定住を促進していきたい。

④. 大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業【再掲】（独立行政法人都市再生機構、長岡市）

事業実施期間	平成30年度～令和8年度【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により、公共公益、業務、商業施設、集合住宅、駐車場等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成30年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	30代以下のまちなか居住人口 【事業目標値】 33人 【最新値】 39人
達成した（出来なかった）理由	当該事業は、4街区のうち3街区の施設建築物の整備が令和5年6月～7月に完了し、順次各施設が開業した。計画のとおりマンションの分譲も順調に進んだほか、他の施設建築物の開業効果により、歩行者等の通行量の増加に寄与し、目標を達成したものと考えられる。 本事業の施設建築物の1つとして約80戸のマンションを整備したことにより、目標を達成したものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	施設利用者数は開業時の好調を維持しており、歩行者等通行量の増加傾向に寄与していると考えられる。
事業の今後について	残り1街区の施設建築物は、令和8年度に完成、開業予定。全街区が開業し、産官学金など様々な機能が集い、連携することでイノベーションとにぎわいの創出を目指す。

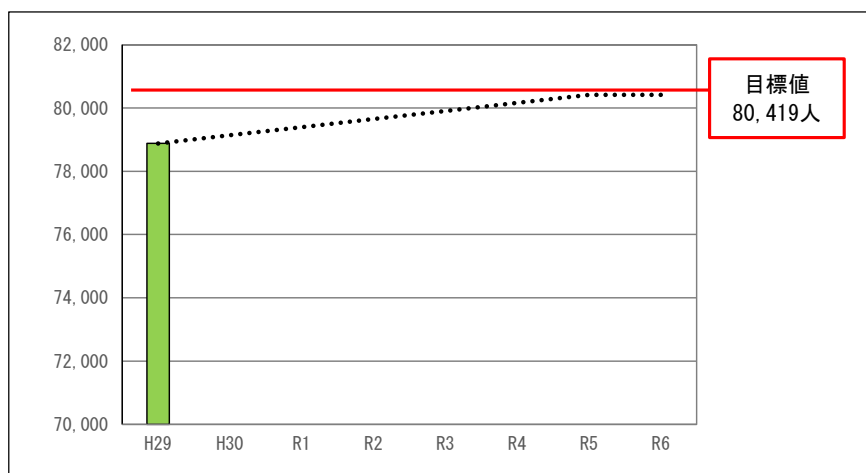
●今後の対策

コロナ禍を経て、年齢問わずに働き方・暮らし方のニーズが変化してきていると考えられ、まちなかで、多様な選択肢の中から自らが望む働き方・暮らし方を選択し、誰もが活躍でき、働きたいと思える環境づくりが必要である。

（参考指標）「学生限定のバスサービス利用者数」（目標の達成状況【-】）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 76～P. 77 参照

●調査結果の推移



年	（単位）
H29	78,881 （基準年値）
R6	80,419 （目標値）

※調査方法：「ちょい乗りバス券」及びN a D e C構想事業シャトルバス等利用者の実数

※調査月：各年度4月から3月までの累計

※調査主体：長岡市

※調査対象：「ちょい乗りバス券」利用者及びN a D e C構想事業シャトルバス等を利用する学生

〈分析内容〉

※学生交流「ちょい乗りバス券」実証実験事業が早期完了しており、最新のバス利用者数が測れないことから実績値を表示できない。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. まちなか図書館（仮称）整備事業【再掲】（長岡市）

事業実施期間	平成30年度～令和8年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、図書館機能を含む複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年度～令和元年度） ②都市構造再編集集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】802人/日 令和2年度に策定した「米百俵プレイス（仮称）人づくり・学び・交流エリアまちなか図書館（機能）基本計画」に基づき、令和4年度は選書作業を行い、令和5年7月22日に西館が先行オープンした。
達成した（出来なかった）理由	学びの場、憩いの場となる複合施設が整備されたことにより、まちを歩く人、まちに集う若者が増加した。

計画終了後の状況及び事業効果	令和5年6月に西館の建築工事が完了、7月に互尊文庫が移転し、ミライエ長岡西館がオープンしたことで、多くの市民に利用されることとなり、中心市街地における市民の居場所づくりの一助となった。また、移転により「教育」に関する都市的サービスを享受しやすくなった。
事業の今後について	令和6年3月から東館の建築工事に着手した。令和3年度に策定した「米百俵プレイス ミライエ長岡 まちなか図書館（互尊文庫）サービス計画」に基づき、令和8年の全館開館に向け準備を進めている。

②. 産学連携情報交流センター（仮称）整備事業【再掲】（長岡市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【完了】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、地元産業の開発・研究・情報発信等の拠点となる施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（令和元年度） ②都市構造再編集集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】736人/日 令和元年度に委託した実施設計に基づき、令和4年度は市の商工担当部署で、求められる機能や運営体制を検討し、令和5年7月22日に西館が先行オープンした。
達成した理由	本事業により整備したNaDeC BASEでは、オープン以降、産業振興の拠点として、4大学1高専の学生や産業界の関係者等が交流を深め、活動を広げており、利用者増につながっている。
計画終了後の状況及び事業効果	NaDeC BASEを拠点に、4大学1高専の学生や産業界の関係者が集い、交流することを通じて、まちに集う若者の増加や起業する人が増加傾向にある。
事業の今後について	NaDeC BASEを拠点に、市内4大学1高専や産業界の関係者が集い、若者の起業・創業や産業ビジネスの支援を通じて、イノベーション創出の促進や産業振興の発展を目指す。

●今後の対策

アオーレ長岡、まちなかキャンパス、トモシアなどの中心市街地の公共施設利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、イベントなどの延期や中止が余儀なくされ、令和2年度に大幅に減少したが、その後はイベントや活動が徐々に再開し、令和5年度にかけて増加傾向を示している。令和5年7月には米百俵プレイス ミライエ長岡西館が先行オープンし、「互尊文庫」や「NaDeC BASE」には、連日多くの若者が集い、多様な活動や交流が行われている。

今後、「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点に、様々な事業を本格的に展開するとともに、「学生イベント参加交通費補助事業」の実施により、中心市街地から離れた場所に立地する市内の大学、高専、専門学校の学生が中心市街地に来る際のバス運賃や駐車料金等を補助することで、集う若者の増加につなげていく必要がある。